

mitsubishi

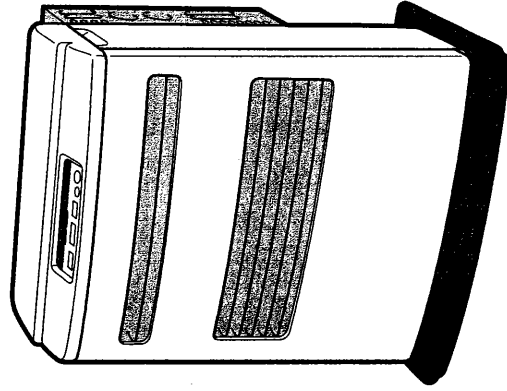
三菱クリーンヒーター®
〈密閉式石油ストーブ〉

形名

VKT-402L
VKT-302L

取扱説明書

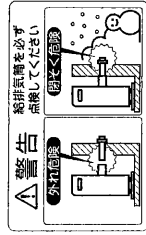
お客様専用



この取扱説明書をよくお読みになり正しくお使いください。
とくに「安全のために必ず守ること」をご使用前に必ず読んで安全にお使いください。

- この説明書はお読みになった後、お使いになるかたがいつでも見られるところに保存のうえ、ご使用中にわからないことや不具合が生じたとき、お役立てください。
- 保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りになり説明書と共に保存してください。

お客様ご自身では据付工事をしていただきません。(安全や機能の確保ができません)

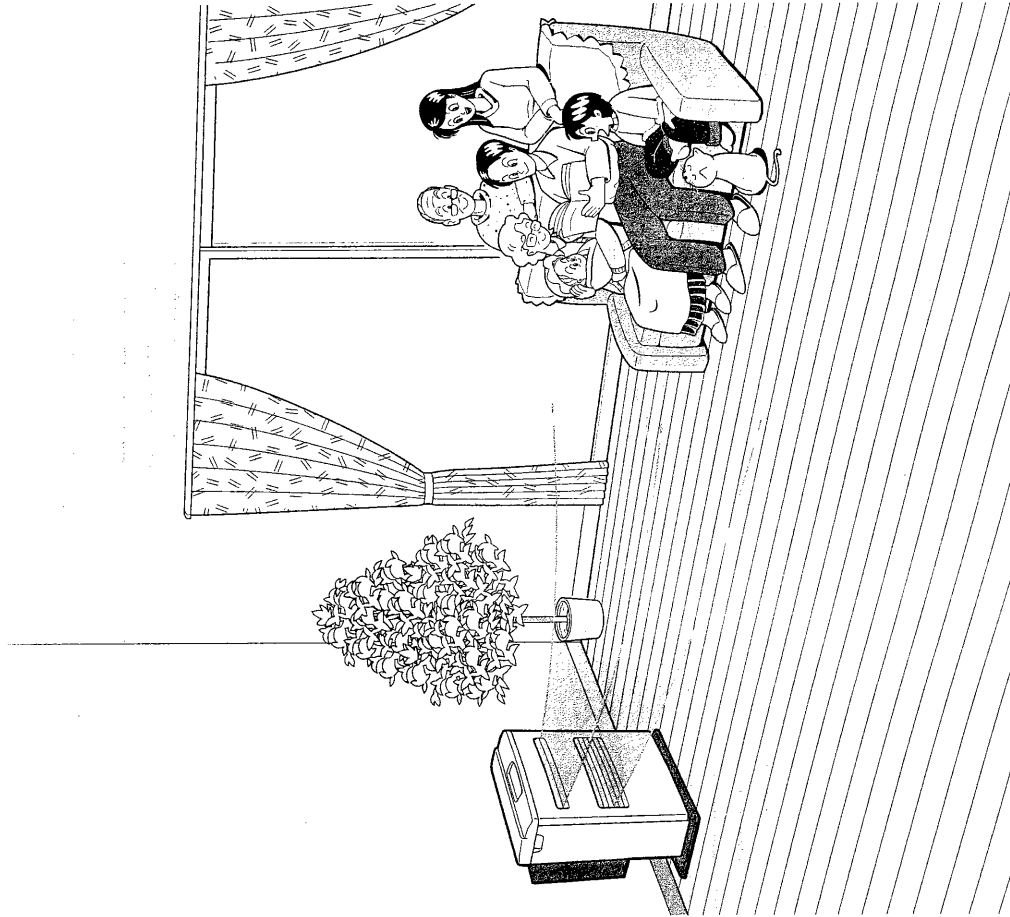


足元から、そして部屋中に広がる、

デュエットフロー温風

上下吹き出しの温風制御で立ち上がりは、足元温風でお部屋を素早く暖めます。
また、お部屋が暖まれば温風が直接からだに当たらないように上向きに微風に調節
します。

温風による吹かれ感の少ない、すこやかな暖かさです。



もくじ

次のようなマークで
必要な情報を示しています。

[お願い]

正しく使っていただく
ための情報です。



より便利にご使用いただく
ための情報です。



細部の機能説明です。



参照ページを示します。

ページ

ご使用のまえに	
安全のために必ず守ること	4~5
安全のためのお願	6
各部のなまえとはたらき	7
表示部・操作部のなまえとはたらき	8
使用前の準備	
燃料	9
給油	9
運転開始前の準備・確認	10

使いかた

ふだんの使いかた	
点火・消火・温度調節	11
すぐ点火させるには(クイック点火)	12
いろいろな使いかた	
時計の合わせかた	13
[入]タイマー運転のしかた	14
いたずら防止に(チャイルドロック)	15
停電のとき	15

日常の点検・手入れ

シーズンはじめ	16
使用のたびに	16
1か月に1回程度	16
1か月に1回以上	16
1シーズンに2~3回	17
定期点検	18
地震などの災害が発生したときの点検	18

故障・異常の見分けかたと処置方法	19~21
修理(部品交換のしかた)	22
保管(長期間使用しない場合)	22
据付け	23~25
保証とアフターサービス	26~27
仕様	裏表紙

安全のために必ず守ること

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、つぎの表示で区分して説明しています。

危険 取扱いを誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う危険が想定される場合

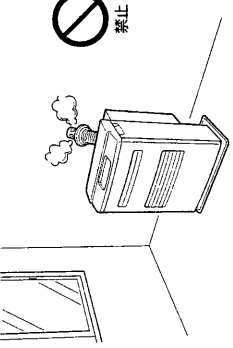
警告 取扱いを誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う危険が想定される場合

注意 取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負う危険が想定される場合

危険

屋内給排気厳禁

お客様自身では据付工事をしない。
(異常燃焼し、一酸化炭素中毒の原因になります)



警告

ガソリン厳禁

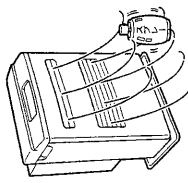
ガソリンなど揮発性の高い油は使わない。
(火災の原因になります)



ガソリン厳禁

スプレー缶接近厳禁

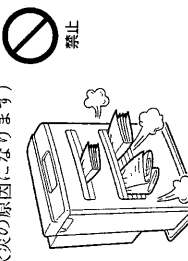
(爆発の原因になります)



接近厳禁

温風吹出口をふさがない

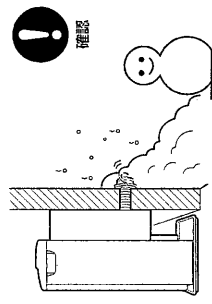
衣類・紙などで温風吹出口、空気取入口をふさがない。
(火災の原因になります)



禁止

給排気筒トップ閉そく危険

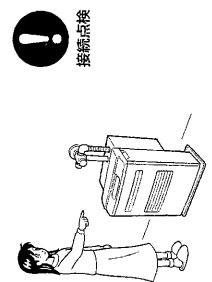
積雪の多いときは、給排気筒トップが雪でふさがれていないか確認し、ふさがれているときは除雪する。
(排気ガスが室内にもれ、一酸化炭素中毒の原因になります)



確認

はすれ危険

給排気筒(管・ホース)が正しく接続されているか点検する。
(はすれていると運転中に排気ガスが室内にもれ、一酸化炭素中毒の原因になります)

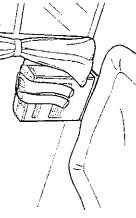


接続点検

注意

カーテン・可燃物近接禁止

(過熱により火災の原因になります)



異常時使用禁止

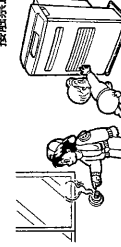
万一異常を感じたときは、使用はしない。
(異常燃焼のおそれがあります)



販売店に点検・修理をご相談ください

高温部接触禁止

温風吹出口や給排気筒トップは燃焼中・停止直後は高温になっています。
(やけどをします)



接触禁止

排気ガスに注意

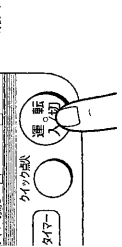
愛猫も動物や植木などに排気ガスをあてはない。
(動物が死んだり、植木が枯れる原因になります)



禁止

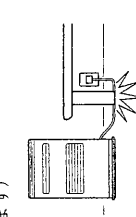
給油時消火

(火災の原因になります)



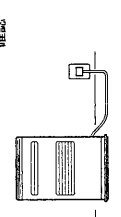
消火

電源コードを傷めない
電源コードに無理な力を加えたり、物を乗せたりしない。
また、コードを持って引き抜かない。
(火災や感電の原因になります)



電源プラグは確実に差し込む

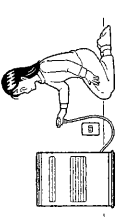
(火災の原因になります)



確認

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

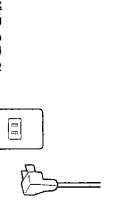
(火災や予想不到の原因になります)



プラグを抜く

電源プラグのお手入れを

ときどき電源プラグを抜き、ほこりを取除く。
(火災の原因になります)

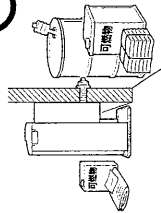


ほこりを取る

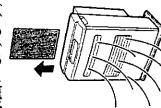
安全のためのお願い

安全のためのお願

●製品の周辺や給排気筒トップ周辺に可燃物を置かない
(過熱により火災の原因になります)



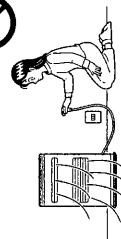
●使用中にエアフィルターをはずさない
●エアフィルターをはずしたまま使用しない
(ほこりが燃焼室内に入り、故障の原因になります)



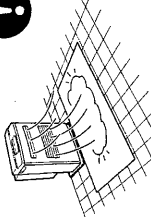
●腰をかけたり、物をのせたり、強いシヨックをあたえない
(変形・故障・給排気部品のはずれる原因になります)



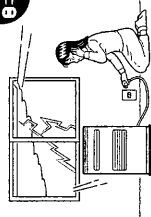
●燃焼中は電源プラグを抜いたり、元電源(ブレーカー)を切らない
(余熱により故障する原因になります)



●熱に弱い床面は保護する
熱に強いマット類を敷く
(床面が変色したりそりかえることがあります)



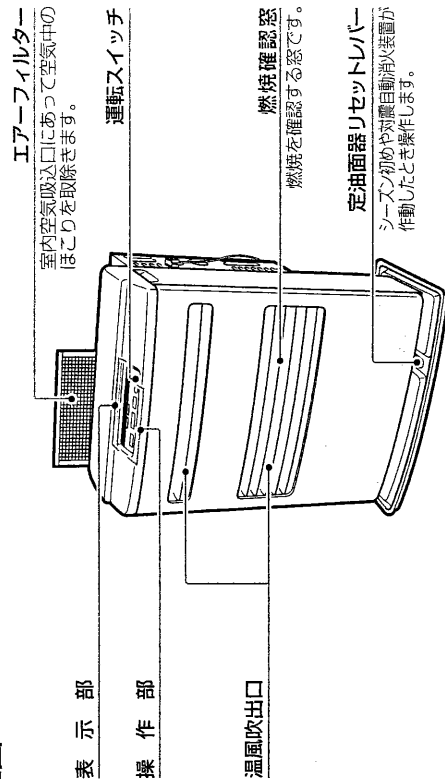
●雷のとき電源プラグを抜く
(故障するおそれがあります)



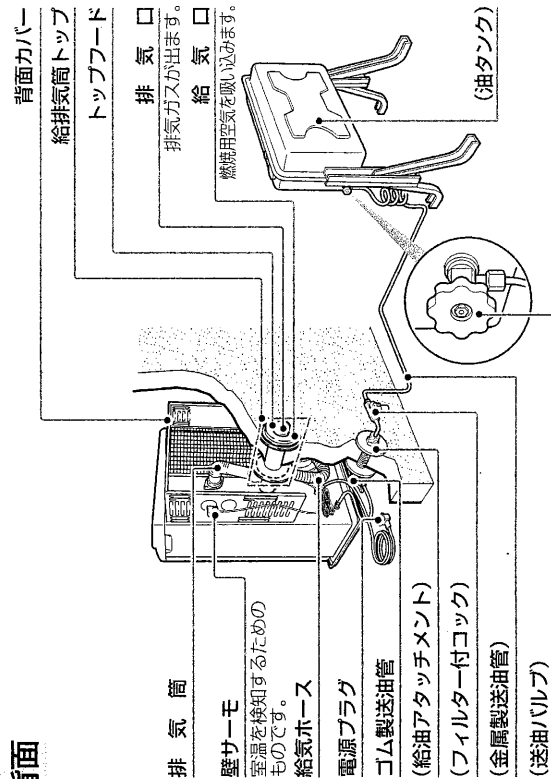
各部のなまえとほたらき
安全のためはお願い

各部のなまえとほたらき

正面



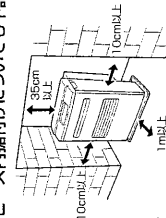
背面



※ () のついている部品は別売りです。

安全に使用するために

●本体周辺の空間寸法を確保する
(マントルピース内据付けについても下記寸法を確保する)



(詳しくはP23)

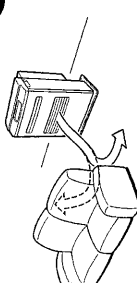
●居室の暖房以外の用途で使用しない
次のような場所では使わない

- 乾燥室
- 温室
- 雨温室
- 化学薬品を使用する場所

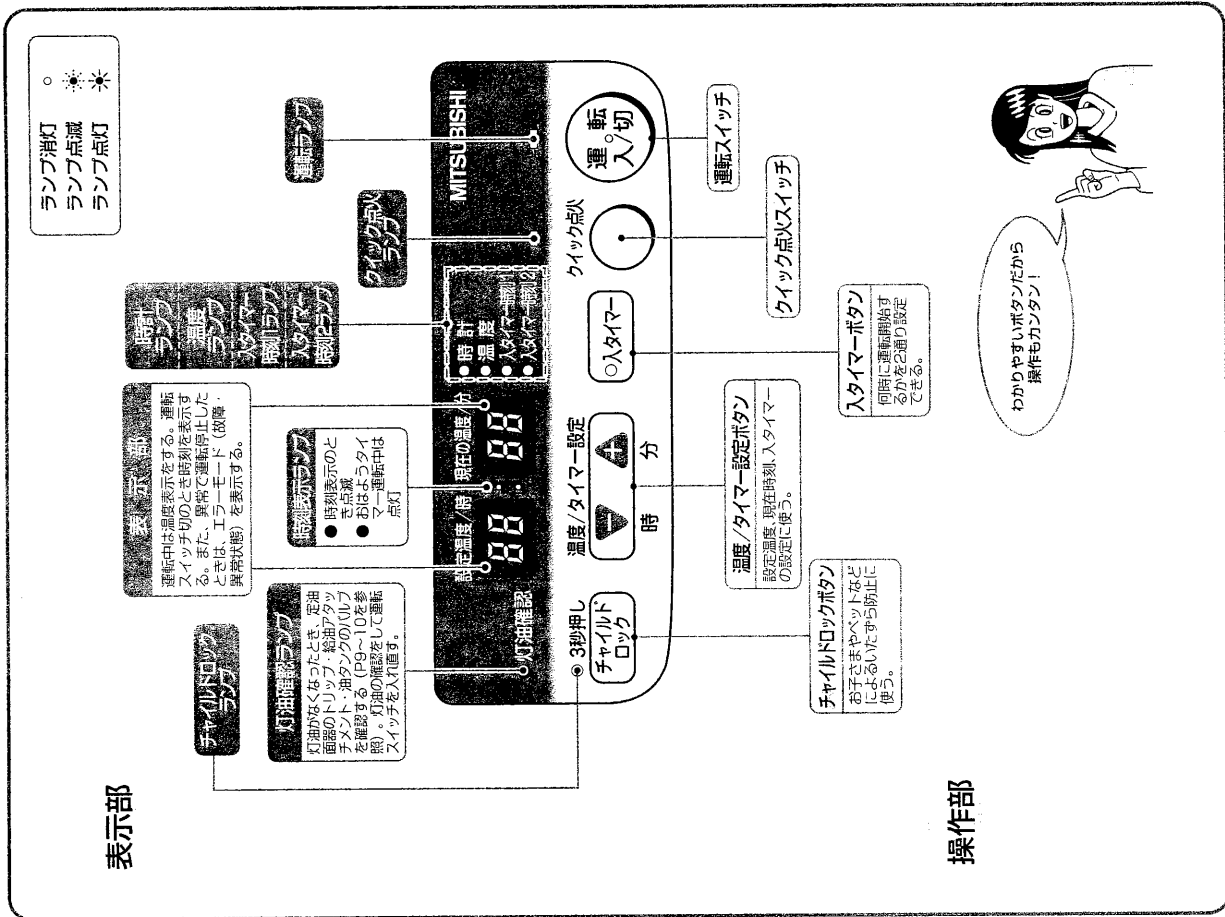


効果的に使用するために

●温風の循環を妨げない
(均一に暖まりません)



表示部・操作部のなまえとはたらき



燃料：給油
表示部：操作部のなまえとはたらき

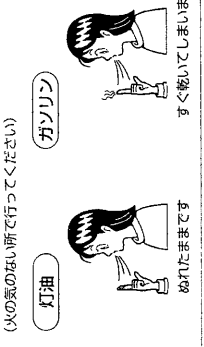
使用前の準備 (燃料・給油)

燃料

ガソリン厳禁

■必ずJIS1号灯油を使う
ガソリン、変質灯油、不純灯油などは、絶対に使用しないでください。

灯油とガソリンの見分けかた
指先につけて鼻をふきかけます。
(火の氣のない場所で行ってください)

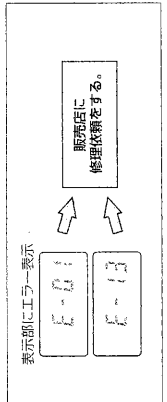


■変質灯油とは
●ボリタンクで昨シーズンより持ち越したものの。
●日光のあたる場所や長期保管したものの。
●温度が高い場所で長期保管したものの。

見分けかた
水よりも色が濃いもの、変質のひどいものは、黄色みを帯びたり、すっぱい臭いがあります。

■不純灯油とは
●水やこみが混入したもの。
●灯油以外の油(天ぷら油、機械油、ガソリン等)が混入したもの。
●助燃剤等が混入したもの。

■誤って変質灯油、不純灯油を使用した場合は故障します。



■油タンクの据付けの確認
油タンクの据付け・接続は販売店・工事店が火災予防条例などに基づき実施しますが、据付工事了後必ずご自身でもご確認ください。……………24

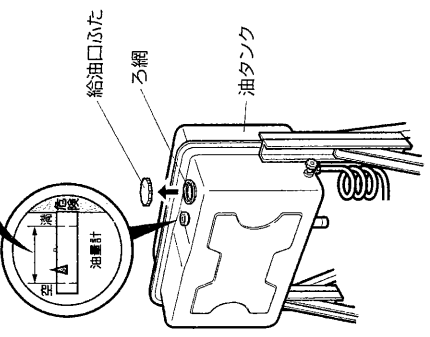
給油手順

空になる前に灯油を入れてください。
(空になると配管途中に空気がたまって、油が流れません)

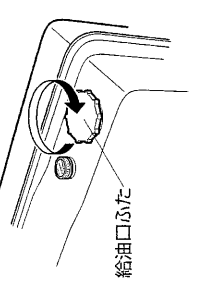
▲警告 ガソリン厳禁

- 1 油タンクの給油口ふたをははずす。
- 2 給油口についている「ろ網」の上からこぼさないように灯油を入れる。

運転中も灯油切れをおこさないようこの範囲でご使用ください。
灯油切れをおこすと運転を停止して「E-01」のエラー表示が出ます。
一度空になると配管途中に空気がたまり、給油をしても灯油が流れなくなる場合があります。
配管内の空気を抜きを必ずする必要があります。



給油口ふたを確実に閉める。



【お願い】
万一、こぼれた場合はよくふきとってください。

燃料：給油
表示部：操作部のなまえとはたらき

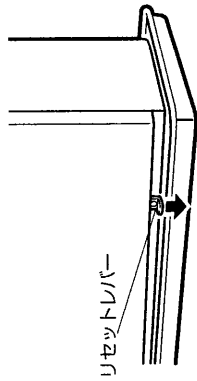
使用前の準備 (運転開始前の準備・確認)

運転開始前の準備

■ 定油面器のセット

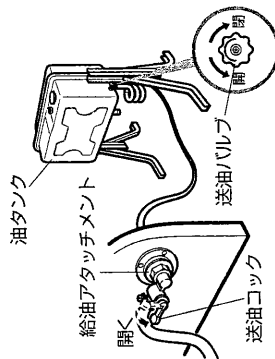
① 定油面器のリセットレバーを1回下げる。

② リセットレバーが元の位置に戻っているか確認する。

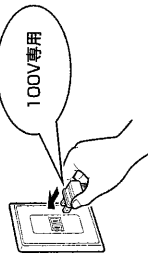


【お願い】
シーメン初めや本体に強い振動が加わって運転停止した後、また、灯油確認ランプが点灯した後で再運転するときは、リセットレバーをもう一度下けてください。

■ 油タンクの送油バルブと給油アタッチメントの送油コックを開く



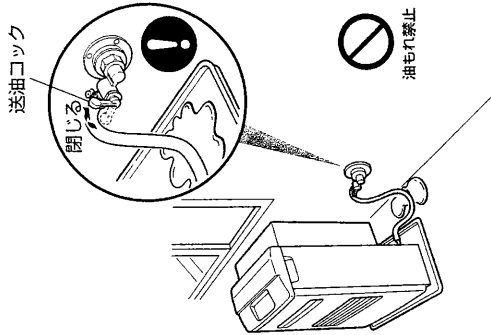
■ 電源プラグをコンセントに差し込む



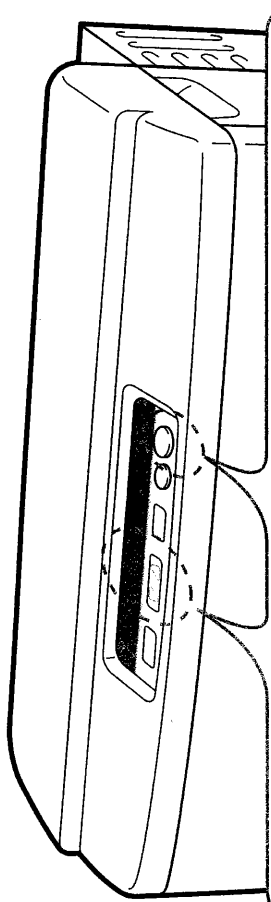
● 専用のコンセントをご使用ください。他の電気製品と同じコンセントで使用すると、時計表示が進んだり、他の製品にノイズが入ったりする場合があります。

運転開始前の確認

■ 製品や配管から油漏れがないか確認してください。
万一、油漏れしている場合は送油コックを閉じて、必ずお買上げの販売店に修理依頼、またはお近くの三菱電機 修理窓口・ご相談窓口にご相談ください。

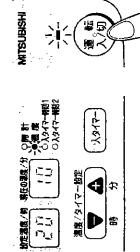


使いかた



点火のしかた

表示部・操作部



運転スイッチを押す

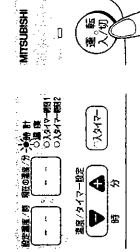
- 運転ランプと温度ランプ・温度表示が点灯します。
- しばらくして点火、温風が出ます。

メモ

- 灯油酸化用のヒーターが暖まるのに5～6分かかります。

消火のしかた

表示部・操作部



運転スイッチを押す

- 運転ランプが消灯します。
- しばらくして送風が止まります。

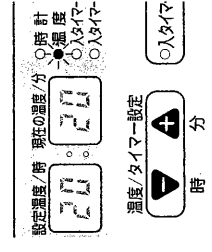
メモ

- 外出するときは、必ず消火してください。
- 時計合わせをするときは時刻を表示します。……13時入ります。

温度調節

現在の温度が設定温度より約3℃高くなると自動的に消火し、設定温度まで下がると自動的に点火します。

表示部・操作部



▲ ボタンを押す

- 押すごとに1℃ずつ温度が上がります。

▼ ボタンを押す

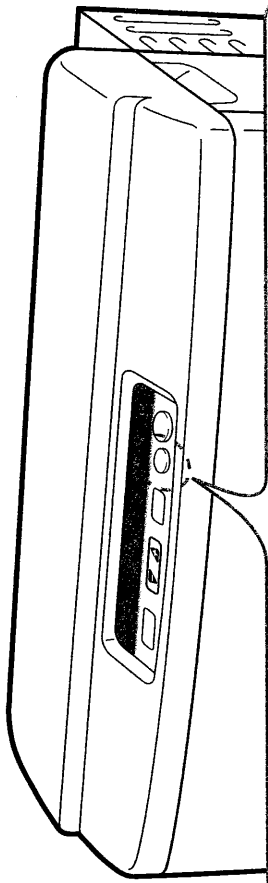
- 押すごとに1℃ずつ温度が下がります。

メモ

- 設定温度は、8℃～30℃の範囲で調節できます。
- 温度調節は運転スイッチ「入」状態で行います。

ふだんの使いかた すぐ点火させるには(クイック点火)

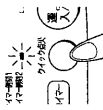
運転スイッチを押してから点火するまでの時間を短くするには、クイック点火スイッチを使用します。



クイック点火について

クイック点火スイッチを押しておく、灯油気化用のヒーターを予熱しておきますので運転スイッチを押すと約30秒(温度条件により1分程度かかる場合があります)で点火します。

表示部・操作部



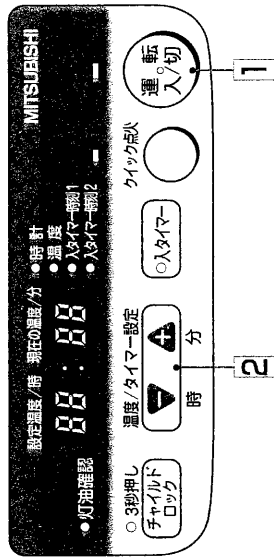
クイック点火スイッチを押す

- クイック点火スイッチは、前もって押しておくスイッチです。
- 運転スイッチを入にする直前に押ししても効果はありません。
- 再度クイック点火スイッチを押すと解除され、ランプが消灯します。
- クイック点火スイッチを押した状態で24時間放置すると自動的にクイック点火が解除され、クイック点火ランプが消滅します。(クイック点火スイッチをもう一度押すと点滅が消えます)
- ※ フライツッポ点火中は約120Wの電力を消費しますので、切り忘れによる電力消費のムダを防止します。
- クイック点火は外出のときなどにお使いいただくことと便利です。通常の使用では、節約のため「入タイマー」でご使用になることをおすすめします。
- 運転中にクイック点火スイッチを押しても、クイック点火待機中の消費電力は消費されません。

壁サーモについて

- 室内の温度計と現在の温度表示が合わない
現在の温度は壁サーモが測定した温度を表示しています。室内の他の温度計とは測定位置が異なるため一致しない場合があります。
また、現在の温度が設定温度より3℃高くなっても消火しませんが、異常ではありません。
- 室温コントロールが安定しない
製品の壁サーモ部に温風が流れていることがあります。壁サーモを温風の影響のないところに移動してください。

いろいろな使いかた 時計の合わせかた



〈条件〉 時計合わせは運転スイッチが「切」のときにします。

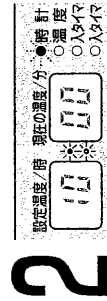
表示部・操作部



運転スイッチを「切」にする

▽ボタンと▲ボタンのいずれかを押す

● 時計ランプが点滅します。



● 工場出荷時は10:00です。

▽ボタンと▲ボタンを押して現在の時刻に合わせる



- ▽ボタンを押すと0~23時まで切れます。
- ▲ボタンを押すと00~59分まで切れます。
- 1秒以上押し続けると早送りします。

時刻合わせが終わると5秒後に自動的に時計がスタートします

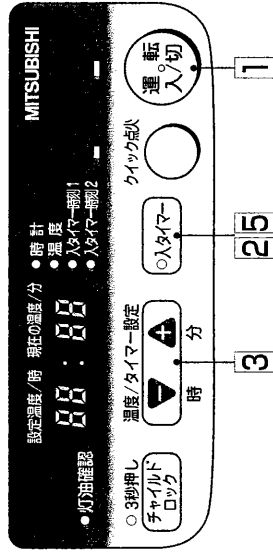
- 時計ランプが点灯し、時刻表示ランプ(時刻表示部中央のコーン)が点滅します。

- 運転スイッチを「入」にすると、直ちに時計がスタートします。
- 時計表示したくない場合は運転スイッチを初めに、▲▼ボタンを同時に1秒以上押ししてください。表示部は――：――になります。

いろいろな使いかた

「入」タイマー運転のしかた (ウォーミングアップ運転機能付)

「入タイマー1」「入タイマー2」でそれぞれタイマー時刻を設定すると、平日と休日、朝と夕のように2通り別々の設定ができます。



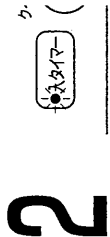
表示部・操作部



1 運転スイッチを押して「入」にする

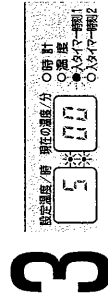
★主

- 入タイマー1の初期設定は5:00です。
- 入タイマー2の初期設定は7:00です。



2 入タイマーボタンを押す

- 入タイマー時刻1ランプが点灯し、入タイマー1時刻を表示します。
- 時計が凍設定のときは操作できません。
- 入タイマーボタンは押すごとに入タイマー時刻1または入タイマー時刻2と切りかわります。



3 AWボタンのいずれかを押す

- 入タイマー時刻1ランプが点滅します。

4 入タイマー1時刻を合わせる

- 時計合わせのしかたと同じです。………[13] 3、4参照

5 入タイマー1時刻にほどよい温度になるようにウォーミングアップ運転で点火を行います。

ミニ情報

ウォーミングアップ運転とは

入タイマー設定時刻の30分前に室温を感知し、その結果により右表のように一定時間早目に運転を開始する運転です。

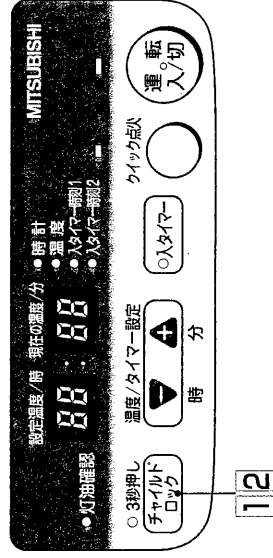
- 現在の時刻から30分以内に入タイマー設定時刻が設定されていると、ウォーミングアップ運転は行わず、入タイマー時刻に運転を開始します。

30分前の室温	5℃未満	5℃-10℃未満	15℃以上
運転開始時刻	26分前	16分前	6分前

いろいろな使いかた

いたずら防止に(チャイルドロック)/停電のとき

チャイルドロックボタンをセットしておくと、お子さまやペットなどによるいたずら操作を防止することができます。



表示部・操作部



1 チャイルドロックボタンを3秒以上押す

- チャイルドロックランプが点灯します。

★主

- ロックがかかるもの
 - ・入タイマーボタン
 - ・温度/タイマー設定ボタン
- ロックがかからないもの
 - ・運転スイッチ
 - ・クイック点火スイッチ



2 解除するにはチャイルドロックボタンを3秒以上押す

- チャイルドロックランプが消滅します。

停電のとき

停電または電源プラグを抜いたときは時計合わせを行ってください。(一旦電源が切れたのち、再通電されているときは時計表示が点滅しています) 次の設定は停電前の設定を記憶しています。

- 温度調節 ●入タイマー1、2の時刻

[13]

使いかた

チャイルドロックについて
タイマー運転のしかた

使いかた

チャイルドロックについて
タイマー運転のしかた

定期点検

2シーズンに1回、定期点検をおすすめします。

使用される場所や条件、また使用時間により消耗・劣化する部品があります。専門技術者(財)日本石油燃焼機器保守協会(03-3499-2928)で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる店で定期点検を受けてください。**安全にお使いいただくために製品の状態を点検診断するものですから必ず受けてください。**

30	<p>2シーズン毎 ただし、条件により1シーズン毎の点検が必要となる場合もあります。 湿度の高いところ ほこりの多いところ(厨房、製粉工場など) 温泉地域などでご使用の場合</p>										
31	<p>お買上げになった販売店 またはお近くの三菱電機 修理窓口へご相談窓口へ</p>										
費用	<p>お買上げの販売店にご相談ください。 定期点検の結果、部品交換や修理等が必要な場合は、処置内容と費用についてお客さまにご相談申しあげます。</p>										
内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期点検の内容</th> <th>項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>据付け状態、給排気回りの点検・確認</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●製品の据付け、使用状態 ●給排気筒の接続とつまり ●送油経路部の油漏れ ●給排気筒トップのつまり </td> </tr> <tr> <td>安全装置および運転動作の点検・確認</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●安全装置の動き ●操作部品や動く部品の動き ●運転動作の点検 </td> </tr> <tr> <td>環境・使用時間により劣化しやすい部品の点検・交換</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●給排気部品、電気接点部品などの点検 ●点火電極、炎検知器などの点検 (劣化の状態により交換の場合もあります) </td> </tr> <tr> <td>製品の清掃・整備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●本体内部 ●油タンクの水抜き ●温風吹出口 </td> </tr> </tbody> </table>	定期点検の内容	項目	据付け状態、給排気回りの点検・確認	<ul style="list-style-type: none"> ●製品の据付け、使用状態 ●給排気筒の接続とつまり ●送油経路部の油漏れ ●給排気筒トップのつまり 	安全装置および運転動作の点検・確認	<ul style="list-style-type: none"> ●安全装置の動き ●操作部品や動く部品の動き ●運転動作の点検 	環境・使用時間により劣化しやすい部品の点検・交換	<ul style="list-style-type: none"> ●給排気部品、電気接点部品などの点検 ●点火電極、炎検知器などの点検 (劣化の状態により交換の場合もあります) 	製品の清掃・整備	<ul style="list-style-type: none"> ●本体内部 ●油タンクの水抜き ●温風吹出口
定期点検の内容	項目										
据付け状態、給排気回りの点検・確認	<ul style="list-style-type: none"> ●製品の据付け、使用状態 ●給排気筒の接続とつまり ●送油経路部の油漏れ ●給排気筒トップのつまり 										
安全装置および運転動作の点検・確認	<ul style="list-style-type: none"> ●安全装置の動き ●操作部品や動く部品の動き ●運転動作の点検 										
環境・使用時間により劣化しやすい部品の点検・交換	<ul style="list-style-type: none"> ●給排気部品、電気接点部品などの点検 ●点火電極、炎検知器などの点検 (劣化の状態により交換の場合もあります) 										
製品の清掃・整備	<ul style="list-style-type: none"> ●本体内部 ●油タンクの水抜き ●温風吹出口 										

地震などの災害が発生したときの点検

- ☆地震などにより製品に振動、衝撃が加わったときは、運転をする前に必ず次の点検を実施してください。
 - 点検内容
 - 給排気回りはすれ、漏れの確認
 - 送油経路部の油漏れ確認
- ☆点検で異常が見つかったときや、点検したのち使用しているときに排気ガスのおいがしたり、目が見えなくなったり、力が入らなくなったり、使用を中止してお買上げの販売店またはお近くの「三菱電機 修理窓口」へ修理依頼してください。

故障・異常の見分けかたと処置方法

表示ランプにより異常をお知らせします

表示ランプ	異常	原因	処置方法
運転ランプが点灯しない	電源プラグがコンセントから抜けている	電源プラグをコンセントに確実に差し込む	
E-00	異常過熱防止装置が作動している	異常着火検知装置が作動している	「お買上げの販売店」にご相談ください
E-01 (点検安全装置・燃焼制御装置)	停電がありませんでしたか? 停電安全装置が作動した	運転スイッチを押しなおし時刻設定をする	13
灯油確認ランプが点滅する	定油面器がセットされていない	定油面器をセットする	19
E-01	送油コック・送油バルブ・水フイルター付コックが閉まっている	閉められているバルブおよびコックを開く	9
E-01	油タンクに油がない	給油する	9
E-01	油タンクに水が入っている	油タンクの水抜きをする	17
E-01	配管途中に凹凸配管がある	凹凸配管をなくす	
E-01	配管中の水フィルター付コックにゴミが詰まって油が流れない	掃除をする	
E-01	給排気筒トップの先端がふさがれている	先端のしや閉物を取り除き運転スイッチを押しなおす	
E-01	油タンク据付け高さが規定外である	お買上げの販売店にご相談ください	
E-06	電源周波数の取り込みエラー	一旦電源プラグをコンセントから抜いて差し込みなおす	
E-12	エアフィルターにほこりがつまって過熱防止装置が作動した	エアフィルターを清掃する	
E-12	温風吹出口がしや閉されて過熱防止装置が作動した	温風吹出口のしや閉物を取り除く	
E-13	異常燃焼している (異常燃焼検知装置の作動)	給排気筒トップの給気口・排気口が異物でふさがれていないか確認し、異物を取り除いてから運転スイッチを押しなおす	
E-13	変質灯油・不純灯油の混入	お買上げの販売店にご相談ください	

故障・異常の見分けかたと処置方法 (つづき)

E-17 運転ランプが点滅する	強い地震や衝撃を受けていませんか？ 対震自動消火装置が作動した 温風吹出口がしや閉されて過熱防止装置(オートカット)が作動した	「地震などの災害が発生したとき」の点検項目を確認し運転スイッチを押しなむす 温風吹出口のしや閉物を取り除き運転スイッチを押しなむす
E-02	マイコン故障	
E-03 E-04	ヒーター回路故障	
E-05	交換知回路故障	
E-07	温風センサー故障	
E-08	ポンプ回路誤動作	
E-14	燃焼ファン回転数異常	
E-09	排気筒がはずれていませんか？ 古い排気筒で延焼排気していませんか？ 排気筒の接続部にストッパーはつけられていますか？ 排気筒は斜視リールは正しく取り付けられていますか？	お買上げの販売店にご連絡ください
現在の温度表示 (L)	壁サーモ温度が6℃未満	そのままご使用ください 室温が上がっても表示が変わらないときはお買上げの販売店にご連絡ください
現在の温度表示 (H)	壁サーモ温度が32℃以上	そのままご使用ください 室温が下がっても表示が変わらないときはお買上げの販売店にご連絡ください

「燃焼確認」のときは

使用を中止しお買上げの販売店に修理依頼、またはお近くの「三菱電機 修理窓口」・「相談窓口」にご相談ください。

症状	予期される故障
燃焼確認が「すす」で汚れた炎がみえない	不完全燃焼をしている
使用中に「ボン」という大きな音がする	部品が故障している
排気ガスのおいがしたり、目がチカチカする	排気ガスが室内にもれている

「燃焼確認」のときは

点火時	すぐ点火しない ピシッピシッと音がする ゴッソングツソングツと音がする 運転スイッチ「入」でなかなか点火しない	運転スイッチを「入」にしてから灯油気化用のヒーターが暖まるまでに5〜6分かかり、その後点火します 燃焼器の熱伸縮音ですので異常ではありません 現在の温度表示が設定温度より高いと点火しません
燃焼時	現在の温度表示と他の温度計で測定した室温が一致しない 5分に一回程度温風が変化する	●現在の温度は壁サーモが測定した温度を表示しています。測定位置の違いにより一致しないことがあります。 ●温度調節がうまくいかない場合は背面カバーに取付けてある壁サーモカバーを上方にスライドしてはらずし、温風、直射日光や冷風の影響を受けない場所に木ネジまたは、両面テープで固定してください。 ●サーモリード線は無理に引っ張らないでください。 壁サーモ(カバー) サーモリード線 燃焼制御装置が働いているためです
消火時・その他	ピシッピシッと音がする ゴッソングツソングツと音がする 時刻表示が進む	燃焼器の熱伸縮音ですので異常ではありません 同一コンセントにノイズを発生しやすい製品が使用されている場合に生じることがあります

以上のことをお調べになって、それでも不具合があるときは使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてください。その後「お買上げの販売店」か、お近くの「三菱電機 修理窓口」・「相談窓口」にご相談ください。

修理 (部品交換のしかた)

お買上げの販売店、またはお近くの「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口」にお問い合わせください。
 専門技術者(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店にご相談ください。不完全な修理は危険です。
 ●ゴム製送油管は3年に1度必ず新品と交換してください。

保管(長期間使用しない場合)

■長期間使用しないとき(シーズン終了時)は、次の要領でお手入れしてください。
 製品は据付けたままにしてください。

① 電源プラグをコンセントから抜く。

② 油タンクの送油バルブと給油アタッチメントの送油コックを「閉」にする。

- 油タンク内に水が入っている場合は水抜き(17ページ参照)を行い、残った灯油はそのままタンク内に保管してください。
- ゴム製送油管の劣化による油漏れを防止するため、必ず送油コックを閉めてください。

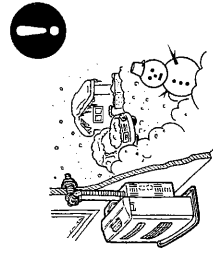
③ 製品外観、エアフィルター、温風吹出口の掃除をする。

据付場所の選定

製品の据付けは販売店・工事店が必ず予防条例などにに基づき実施していますが据付工事完了後、販売店・工事店とともにお客様ご自身でもご確認ください。

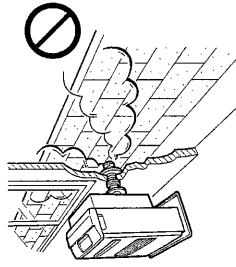
⚠ 警告

給排気筒トップ閉そく危険
 積雪の多い地方では、給排気筒
 トップが雪で埋もれない位置に
 取付けること。

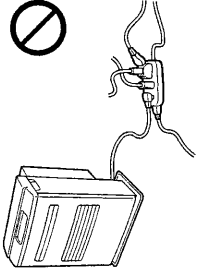


【お願い】

排気ガスがよどまないか確認する
 排気ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがあります。



タコ足配線で使わない
 電源は交流100Vコンセント単独
 で使う。



【お願い】

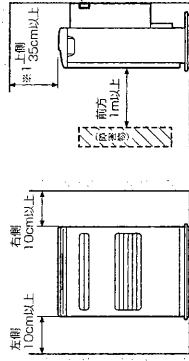
どうしても取りはずしに保管するときは、通気やほこりの少ないところに保管してください。
 再び据付けるときは、必ずお買上げの販売店に依頼してください。
 お客様ご自身では、据付工事をしてください。
 製品内部の清掃は、必ずお買上げの販売店に依頼してください。

据付け

製品と周囲との距離

製品を据付ける場合は、石油燃焼機器の設置基準(財)日本石油燃焼機器保守協会]で決められている下図の可燃物との距離を必ずとってください。
 アフターサービス、定期点検、更に給排気回りの点検を行うためにも必要です。

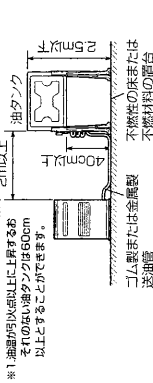
この製品は防火性能評定委員会認定承認されたものですので上側60cm以上の制限を受けず、下記の寸法で据付可能です。



本体後面の空間距離は10cm以上必要です。本体付属の背面カバーで10cm以上が確保できます。背面カバーが壁面に密着していることを確認してください。

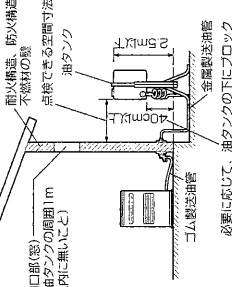
※1. 別売りの中折れフィルターを使用しますと、20cmまで上側寸法を近づけることができます。その場合は、左、右どちらか一方に裏面点検のため30cmを確保してください。

油タンク(20ℓ未満)を屋内に据付ける場合



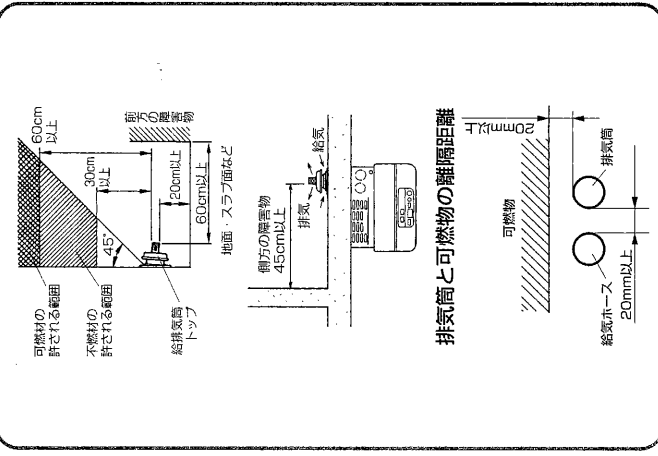
※1. 送油管が壁面に接触するおそれのない油タンクは60cm以上とすることがあります。

油タンク(20ℓ未満)を屋外に据付ける場合

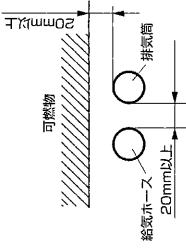


必要に応じて、油タンクの下にブロックなどを置いて確保してください。

付属のゴム製送油管が短く、製品と油タンクとの距離距離が確保できない場合や、ゴム製送油管が短く送油(V/L)に接続できない場合は、当社サービス部品のゴム製送油管3m品(M45508260)をご使用ください。
 油タンクはアンカーボルトで床に固定するなど、転倒防止の処置を必ず行ってください。



排気筒と可燃物の距離



据付け工事後の確認

据付け工事終了後に販売店・工事店とともにお客さまご自身でも下表に基づき点検してください。

点検箇所	点検項目	参照ページ	チェック結果
製品	製品の回りは必要な空間がありますか。	23	
	床面の不安定な場所に据付けてありませんか。	-	
	丈夫な床面に製品が固定してありますか。	-	
	製品・ゴム製送油管から油漏れはありませんか。	10	
	ゴム製送油管を屋外で使用していませんか。(屋外は金属配管)	23	
	ゴム製送油管が排気部品に触れていませんか。また送油管に急激な曲がりはありませんか。	23	
	標高調節は正しく行われていますか。	-	
	油タンクや送油管から油漏れはありませんか。	9	
	油タンクの据付けは基準寸法が守られていますか。	23	
	給排気筒トップの周囲は基準寸法が守られていますか。	23	
給排気部品	排気筒は壁や給気ホースなどの可燃物から20mm以上離れていますか。	5	
	給排気筒のはずれ、ゆるみがありますか。	4	
	排気ガスが屋外へ排気されるようになっていますか。	4	
	給排気筒トップの取付けが屋外に向けて下り勾配になっていますか。	-	
	給排気筒トップの周囲に障害物(樹木・愛かん動物・雪のふきざまり)はありませんか。4・5・22	6	
	給排気筒トップの周囲に危険物(灯油・ガソリン・プロパンガス)はありませんか。	-	
	トップフードが必ず取付けられていますか。	-	
	トップフードの給気口・排気口がビニール袋などの異物でふさがっていませんか。	4	
	集合煙突に給排気筒を取付けた工事はされていますか。	-	
	床下・天井裏へ給排気していませんか。	-	
延長工事	壁埋込みの配管工事はしてありませんか。	-	
	排気筒の長さは給気ホースに比べ極端に長くなっていませんか。	-	
	給気ホース・排気筒の長さは3m以内で曲がり数3箇所以内ですか。	-	
	排気筒の途中に水がたまるようなへこみ部はありませんか。	-	
	排気筒のドレン戻り寸法は1.8m以下になっていますか。	-	
電気配線	古い排気筒を使用していませんか。	-	
	電源プラグはコンセントに確実に差し込まれていますか。	5	
	電源コードは高温部に触れていませんか。	-	
	電源コンセントは電源プラグの抜き差しが容易な位置にありますか。	-	
	ノイズの影響を受けやすいテレビやビデオなどと同じコンセントで使用していませんか。	10	
排気筒はずれ検知リード	排気筒はずれ検知リードは、給排気筒トップに接続されていますか。	-	
	排気筒はずれ検知リードは、給気ホースにそって固定されていますか。	-	

上記が守られていないと火災・不完全燃焼などをおこす恐れがありますので、販売店・工事店に正しい処置をご依頼ください。

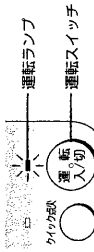
試運転

試運転は、販売店・工事店と立合いで行ってください。
運転手順、異常時の処置方法について販売店・工事店より説明を受けてください。

■運転準備

- 1 油タンクに給油する。
- 2 定油面器のリセットレバーを下へ1回下げ、元の位置に戻すことを確認する。
- 3 油タンクの送油バルブと給油アタッチメントの送油コックを「開」にする。
- 4 油タンクや送油管・ゴム製送油管から油漏れがないか確認する。
- 5 電源プラグをコンセント(単相100V)に確実に差し込む。

■運転開始と停止の手順



- 1 運転スイッチを押し、「入」にする。
運転ランプが点灯し、5～6分後に燃焼を開始し、温風がでます。その状態で約15分間運転して異常表示が出ないか確認してください。
- 2 再度運転スイッチを押し、「切」にする。
運転ランプが消灯し、燃焼を停止します。しばらくして本体が冷えると対流用送風機が止まり、運転が停止します。

お知らせ

- 室内温度が30℃以上ある場合に試運転するときには温度/タイマー設定ボタン▲を5秒以上押し続けて「H」を表示させると最大燃焼量で連続運転を行います。
- 連続運転は自動的に約10分間で解除されますが、▼ボタンが運転スイッチを「切」にしても解除できません。
- 初期運転時の現象
 - 初期運転時や燃料切れの際、ポッポッと音をたてて燃焼することがありますが、故障ではありません。
 - 温風吹出口から煙やにおいが出る場合がありますが、パッキンから初期的に発生する臭いや燃焼器に付着した油やほこりが焼けるためで異常ではありません。
 - 試運転は部屋の換気をしながら行ってください。
- 正常運転の目安
 - 正常運転の目安として、19～21ページのような現象がないことを確認ください。

修理・取扱い・お手入れなどのご相談は
まず、お買上げの販売店へお申し付けください。

転居や贈答品などでお困りの場合は右一覧表で
●修理のお問い合わせ 「修理窓口」へ
●その他のお問い合わせ 「ご相談窓口」へ

保証書(別添付)について

●保証書は、必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入を
お確かめのうえ、販売店からお受けください。
●内容をよくお読みのと、大切に保存してください。

保証期間…お買上げ日から1年間。
(ただし、燃焼器部分については3年間です。)

補修用性能部品の保有期間

●当社は、この三菱クリーナーの補修用性能部品
を製造打ち切り後10年保有しています。
●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するため
に必要な部品です。

修理を依頼されるときは

「故障かな?」と思ったら(19~21ページ)にしたがって
お調べください。なお、不具合があるときは、運転ス
イッチを切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買上げ
の販売店にご連絡ください。

保証期間中は

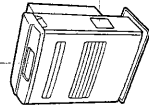
●修理に際しては、保証書をご提示ください。
●保証書の規定にしたがって販売店が修理させていただきます。

保証期間がすぎるときは

●修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理さ
せていただきます。
●修理料金は、技師料+部品代(出張料)などで構成され
ています。

ご連絡いただきたい内容

1. 品名 三菱クリーナー
2. 形名 VKT-402L、302L
3. お買上げ年・月・日
4. 故障状況と故障表示
(できるだけ具体的に)
5. ご住所
(付近の目印なども)
6. お名前・電話番号



三菱電機 修理窓口・ご相談窓口のご案内 (家電品)

修理・取扱いのご相談は
まずお買上げの販売店へ

転居や贈答品などでお買上げの販売店へ
ご依頼できない場合は

修理のお問い合わせは

その他のお問い合わせは

修理窓口へ

ご相談窓口へ

修理窓口 電話受付: 365日24時間

北海道地区

- 札幌 (011) 890-7520 帯広 (0155) 35-3111
- 旭川 (0166) 26-5580 苫小牧 (0144) 55-1114
- 北見 (0157) 25-7045 小樽 (0134) 33-3380
- 釧路 (0154) 24-1355 函館 (0138) 49-0345

東北地区

- 青森 (017) 773-8381 秋田 (018) 865-4471
- 弘前 (0172) 32-6535 横手 (0182) 32-1785
- 八戸 (0178) 28-8544 大館 (0186) 42-2781
- むつ (0175) 22-3277 大田原 (023) 624-0018
- 盛岡 (019) 637-7454 山形市大野目 2-1-21
- 水沢 (0197) 25-4511 山形市上野町 5-4
- 釜石 (0193) 23-4611 新井市上野町 2-3
- 仙台 (022) 238-1773 米沢市上野町 742-6

関東地区

- 気仙沼 (0226) 23-8485 福島市 30-11
- 石巻 (0225) 95-9111 仙台市青葉区 16-288
- 古川 (0229) 24-3595 仙台市青葉区 16-288
- いわき (0246) 26-1822 いわき市内藤町 75-8

首都圏地区

東京都・神奈川県・千葉県
茨城県・埼玉県・栃木県・群馬県
フロントセンター東京 電話 (03) 3424-1111
FAX (03) 3424-1115
東京都世田谷区池原 3-10-3

甲信越地区

新潟 (025) 274-9165 長野 (026) 221-3232
長岡 (0258) 23-3323 長野市 531
上越 (0255) 24-1160 飯田 (0265) 52-5396
山梨 (055) 222-2711

東海・北陸地区

愛知県・三重県
フロントセンター名古屋 電話 (052) 721-0131
FAX (052) 721-7268
名古屋市中区栄 5-1-14

沼津 (0559) 22-7111 高山 (0577) 33-7410
静岡 (054) 284-0821 富山 (0766) 56-0121
浜松 (053) 463-8455 金沢 (076) 252-8133
岐阜 (058) 275-0909 福井 (0776) 22-6340
中津川 (0573) 65-6646

関西地区

大阪府・奈良県・和歌山県 (田辺・新宮を除く)
兵庫県 (姫神・淡路地区)・京都府 (嵯峨を除く)
フロントセンター関西 電話 (06) 6454-3901
FAX (06) 6454-3900
大阪府北区大淀中 1-4-13

滋賀 (077) 552-4058 豊岡 (0796) 24-6360
畿北 (0773) 23-5960 田辺 (0739) 23-1109
姫路 (0792) 94-3383 新宮 (0735) 22-2495

中国・四国地区

広島県・山口県・島根県・鳥取県・岡山県
香川県・徳島県・高知県・愛媛県
中・四国CSセンター 電話 (082) 890-6365
FAX (082) 890-6367
広島市南区大洲 4-3-26

九州地区

福岡 (092) 412-5333 熊本 (096) 380-0211
北九州 (093) 653-1231 八代 (0965) 33-5173
久留米 (0942) 45-2661 大分 (097) 558-8803
佐賀 (0952) 31-4189 宮崎 (0985) 56-4900
唐津 (0955) 72-1337 延岡 (0982) 21-3540
長崎 (095) 843-0622 鹿児島 (099) 260-2421
佐世保 (0956) 30-7740 沖縄 (098) 998-3333

ご相談窓口

購入・買替えのご相談、取扱い方法のお問い合わせは
三菱電機お客様ご相談センター
〒154-0001 東京都世田谷区池原 3-10-3

☎ 0120-139-365 (通話料無料)
受付時間 9:00~17:00
電話番号 03-3413-4049

当社家電品についてのご意見やご要望は
地区お客様相談室

- 北海道 (011) 869-1313
- 東北 (022) 231-8582
- 関東 (03) 3414-9722
- 中部 (052) 972-7222
- 関西 (06) 6451-3611
- 中国 (082) 879-1190
- 九州 (092) 571-2211

※所在地、電話番号などについては変更になることがあります。あらかじめご了承ください。

